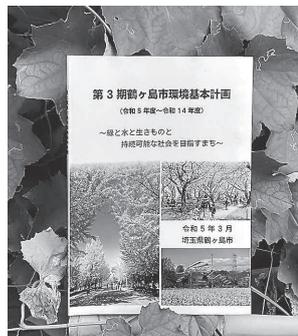


り、専門的見地からの対応が必要と判断した。



第3期鶴ヶ島市環境基本計画

で運行しているところである。現在、運転手が高齢化しているため、若手の運転手の確保が必要である。加えて、利用者の高齢化がさらに進むと、運賃収入が減り、運行経費に対応する市の負担金が増えていくことが想定される。利便性の向上を図りつつも、市の負担額をいかに抑えていくかが課題である。

ふるさと振興発信事業

Q 現状の費用に対する効果とお金で表せない効果は。

A 令和4年度の寄附の受入額と決算額の単純な差引による利益は約1億5150万円である。4年度は寄附金を活用し、約2億2600万円を市内事業者の育成などの事業に充当し、事業を実施した。また、関連イベントに出展し、本市のPRを行うなど相乗効果を狙ったシテイプロモーションを行った。

市内公共交通運行事業

Q 過去最多の利用者となったことだが、現在の課題は。

A 決まった時間帯において混雑していたため、4年度に利用実績などを踏まえた見直しを図り、本年6月より新ダイヤ



つるバス

Q バスローテーションシステムの効果は。

A 利用者が運行状況などを運行事業者や市に問合せをしていた手間が省けるとともに、閲覧画面に代替車での運行や台風による遅れなどのお知らせを表示することで、利用者の利便性や安心感が向上した。

いじめ対策・不登校支援等総合推進事業

Q どんな調査でいじめの認知件数を捉えているのか。



A hyperIQUのいじめ対策項目などの調査及びスクールカウンセラーの校内巡視などからの情報を総合的に見ることで、いじめなどの認知を行っている。

Q 登校できるようになった児童・生徒数は。

A 小学生1名、中学生が1名が教育支援室アペルトから学校に戻ることができた。

小学校・中学校鶴つ子サマースクール×大学生WIN-WIN事業

Q 執行率が小学校で76・6%、中学校で66・6%だが、応募が少なかつたのか。

A 学習指導補助員にあたる大學生の確保を見込んだところ、大学の試験日程と重なったこと、あるいは学期最後の授業を実施する大学が多く、サマースクールの第1スクールの大学生の応募が定員に達しなかった。

特別会計

国民健康保険

Q 税率改正の見直しは。

A 埼玉県では、9年度から県内市町村の保険税率の統一を目指しており、それまでにそれに見合う標準保険税率となる。

現在かなりの乖離があるが、これをすぐに埋めると、被保険者への影響がかなり大きくなる。段階的に税率改正をし、その額に引き上げる準備を進めている。

後期高齢者医療

Q 本市の特色は。

A 被保険者の医療費は、高齢者数の増加で、7・5%増加したが、一人当たりとする

0・2%減少した。健康意識の高さが医療費の抑制につながっていると考える。



介護保険

Q 配食サービスの助成対象者へのPR方法は。

A ケアマネジャーへ案内書の配付や、会議に出席して説明している。また、市民向けに広報紙やホームページなどに掲載して周知している。



特別会計決算

国民健康保険

歳入 約68億413万円
歳出 約66億8993万円

後期高齢者医療

歳入 約9億8613万円
歳出 約9億8405万円

介護保険

歳入 約46億8635万円
歳出 約43億8445万円

一本松土地区画整理事業

歳入 約1億1329万円
歳出 約1億5万円

若葉駅西口土地区画整理事業

歳入 約3億1407万円
歳出 約3億949万円